

環境教育関係事業について

1 はじめに

本市では、「札幌市環境教育・環境学習基本方針」（以下「本方針」という。）に基づき、環境教育・環境学習の取組を推進しています。

誰もが、これからもずっと安心して暮らしていくためには、一人一人が身近な環境について真剣に考えて、行動する必要があります。本方針は、今のことだけではなく未来のことも想像し、自分のことだけではなく周りにいるみんなのことを思い、そして、生き物同士のつながりなどの地球環境のことを真面目に考えて、やるべきことを自ら判断し、積極的に取り組む「環境市民」を、学びを通して増やすことを基本理念としています。

本方針の第4章には、人々が環境問題を理解し、環境保全の行動を進め、さらに多くの人に行動が広がるよう、札幌市が主体となって推進する四つの取組として「(1)学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進」、「(2)「環境人材」の育成」、「(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実」、「(4)普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し」が定められています。

本資料は、環境局環境都市推進部環境政策課 環境教育担当係が所管する環境教育関係事業の令和2年度実施結果及び今後の予定について、これら四つの取組に沿って報告するものです。

【参照 URL】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/kihon_hoshin/index.html

札幌市が主体となって推進する環境教育・環境学習に関する取り組み

札幌市環境教育・環境学習基本方針で定めた4つの取り組み

- (1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進
- (2) 「環境人材」の育成
- (3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実
- (4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

2 令和2年度実施結果及び今後の予定について

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進

ア 環境副教材・教師用手引書

毎年度、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ2年間にわたって利用してもらっています。また、教師用手引書も配布しています。今年度も、より利用しやすい副教材・手引書とするために、「理科」「社会科」「家庭科」「生活科」「特別な教科 道徳」の各担当教員によるワーキンググループを組織し、令和3年度版の改訂を行いました。

5・6年生用では、フェアトレードやレインフォレスト・アライアンス認証制度について新たに掲載し、持続可能な社会を実現するためには、私たちの食べものや身の回りの物に関わる海外の生産者のことを考え、さらに環境問題がどのように関わっているかについて学べるようにしました。

また、道徳科のテーマを「気候変動とカーボンニュートラル」に変更し、登場人物の心情について話し合う活動を通して、地球規模で起こっている異変に気づき、地球人の一人として未来のために今できることをしていこうとする実践意欲と態度を育てる内容としました。

【参照 URL】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/material/index.html

イ 環境教育へのクリック募金

「環境教育へのクリック募金」は、インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、企業の環境活動を紹介しており、閲覧数に応じた金額を協力企業（現在は8社）にご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入・寄贈しています。

今年度は、小中学校計43校に、手回し発電機、ガス検知管、野菜苗などの環境教育教材を寄贈しました。

また、クリック募金のホームページ上で「事業報告書」を公開し、各年度の学校での取組内容を紹介しています。

【参照 URL】

<https://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/bokin/index.html>

ウ エコライフレポート

エコライフレポートは、小中学生に家庭のエコリーダーとして環境配慮行動を意識し、実践してもらうことを目的に、平成 19 年度から実施している事業です。

夏休み及び冬休み前に全市立小中学校の児童・生徒に用紙を配付し、身近なエコ行動への取り組みを促すものとして実施しています。

節電などのほか、環境にやさしいものを意識して使うための「エコマークの付いた商品をたくさん見つける」や地産地消を促進するための「北海道産の野菜を食べる」についても取り組み項目として設定しており、3 年間継続した取組を続けてもらうため、平成 30 年度から令和 2 年度まで項目を変えずに実施しました。

また、トピックとして、今年度の夏休み版では、水力・風力・太陽光などの再生可能エネルギー、冬休み版では、脱炭素社会や水素エネルギーについて掲載し、二酸化炭素とエネルギーについて考えてもらう内容としました。

なお、取り組み結果については、これまでと同様、各学校においてどのくらいの CO₂削減効果があったかを記載した「認定証」を配布しました。

【参照 URL】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/ecolifereport/ecolifereport.html

<夏休みエコライフレポート>

児童・生徒の取組率 94.0%

	取組学校数	児童・生徒数	取組人数	取組率	
				令和 2 年度夏	参考(令和元年度夏)
小学生	198 校	89,472 人	85,930 人	96.0%	97.0%
中学生	97 校	43,370 人	38,944 人	89.8%	92.1%
合 計	295 校	132,842 人	124,874 人	94.0%	95.4%

子どもたちによる CO₂削減量

	CO ₂ 削減量	
	令和2年度夏	参考(令和元年度夏)
小学生	980,393 kg-CO ₂	1,023,949 kg-CO ₂
中学生	497,493 kg-CO ₂	517,505 kg-CO ₂
合 計	1,477,886 kg-CO ₂	1,541,454 kg-CO ₂

※ 数値は児童・生徒たちの取組チェック項目からの1カ月の推計値

<冬休みエコライフレポート>

児童・生徒の取組率 93.9%

	取組学校数	児童・生徒数	取組人数	取組率	
				令和2年度冬	参考(令和元年度冬)
小学生	199 校	89,694 人	86,198 人	96.1%	95.0%
中学生	99 校	43,439 人	38,779 人	89.3%	90.0%
合 計	298 校	133,133 人	124,977 人	93.9%	93.4%

子どもたちによる CO₂削減量

	CO ₂ 削減量	
	令和2年度冬	参考(令和元年度冬)
小学生	2,092,446 kg-CO ₂	2,092,475 kg-CO ₂
中学生	958,496 kg-CO ₂	1,020,395 kg-CO ₂
合 計	3,050,942 kg-CO ₂	3,112,870 kg-CO ₂

※ 数値は児童・生徒たちの取組チェック項目からの1カ月の推計値

エ 校外学習用バス貸出

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に環境教育に関する校外学習用バスの貸出事業を行っています。

道内連携や学校現場のニーズを踏まえ、平成28年度から札幌近郊や民間企業施設も見学対象施設として拡充しており、具体的には、太陽光発電や風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などを見学施設に組み込み、実践的に学べるよう工夫しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、事業の実施可否にかかる検討を重ねましたが、感染拡大の収束が見通せない中、実施にあたり最も配慮すべきだと考えられる児童・生徒の健康と安全を確保することが困難であることなどから中止しました。

来年度について、現段階では、児童・生徒が座席間隔を空けて乗車できるよう 1 校あたりの貸出台数を増やし実施することを検討していますが、この手法で実施した場合、予算上の制約から、貸出できる学校数が例年より少なくなり、抽選などで貸出す学校を決定せざるを得ない状況となることが想定されます。

【参照 URL】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/bus-rent/index.html

〔バス貸出実績推移〕

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R 2 年度
応募校数	103 校	58 校	59 校	52 校	49 校	46 校	校
利用校数	34 校	50 校	59 校	52 校	49 校	46 校	校
バス利用台数	76 台	99 台	125 台	110 台	98 台	96 台	台

※ 校数・バス利用台数は延べ数。

※ 小学校を対象に平成 19 年度事業開始。平成 21 年度からは中学校も対象。

※ 平成 26 年度から夏季繁忙期におけるバスの手配が困難となり、実施期間を 10～12 月に変更。

※ 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

【参考】＜主な見学先（令和元年度）＞

見学先	見学校数（延べ）
アイヌ文化交流センター	10 校
白石清掃工場	9 校
豊平川さけ科学館	6 校
北海道ガス石狩 L N G 基地	5 校
水道記念館	5 校
北海道博物館	4 校
円山動物園	4 校
定山溪ダム	3 校
中沼資源選別センター	3 校
ホクレンパールライス工場	3 校

(2) 「環境人材」の育成

ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣

市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

「札幌市環境保全アドバイザー派遣制度」は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等の消費生活など様々な環境分野の研修会、学習会等に専門家を派遣する事業で、11 人のアドバイザーに登録いただいています。

「札幌市環境教育リーダー派遣制度」は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導、解説者を派遣する事業で、29 人のリーダーに登録いただいています。

アドバイザー、リーダーの派遣期間は、5 月 1 日から 3 月 31 日までですが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から 5 月から 7 月までの期間において派遣を中止したこと、また派遣を実施した活動についても参加人数が少ない小規模なものが多かったことから、アドバイザー、リーダーともに派遣件数や参加人数は前年度を下回る結果となりました。

来年度は、感染症対策を徹底したうえで、例年どおり 5 月から派遣を開始する予定です。

なお、今年度当初のリーダー登録数は 27 人でありましたが、リーダーの高齢化が進んでいるためスキルを継承しながら世代交代する必要があること、また、近年、複数のリーダーの派遣が必要となる川での水生生物観察会や幼稚園・保育園における自然体験会の需要が増加しており、対応可能なリーダーが不足していることから、新規募集した結果、2 人のリーダーを増員しました。

【参照 URL】

<https://www.kankyo.sl-plaza.jp/service/>

【派遣実績】

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
環境保全アドバイザー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	45 件 (2,926 人) <14 人>	44 件 (1,398 人) <14 人>	40 件 (1,530 人) <13 人>	39 件 (1,764 人) <12 人>	16 件 (284 人) <11 人>
環境教育リーダー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	93 件 (3,558 人) <27 人>	100 件 (3,869 人) <32 人>	75 件 (2,175 人) <32 人>	57 件 (1,736 人) <31 人>	32 件 (798 人) <29 人>

※ 令和 2 年度は、令和 3 年 2 月末現在の実績

イ 札幌市環境プラザにおけるリーダー育成

(7) こどもエコクラブ

環境プラザは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体およびこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。

例年実施している市内のこどもエコクラブ交流会は、当初 12 月に実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止としました。

また、例年実施していた活動写真展の代わりとして、各クラブの活動の様子を環境プラザ職員やクラブのサポーターが写真や動画に収め、札幌市内のエコクラブ活動のダイジェスト動画を作成しました。

作成した動画は、動画共有サイト「エコチャン!!ー環境プラザ YouTube チャンネル」にアップロードしたほか、こどもエコクラブの公式ホームページにおいても公開してもらうことで、札幌市内のこどもエコクラブの活動についてインターネットを通して広く認知してもらう機会としました。

【参照 URL】

<https://www.kankyo.sl-plaza.jp/service/>

https://www.youtube.com/channel/UC1jSPZ_Y0Xz8Cxb34Jp-5Dw/videos

<http://www.j-ecoclub.jp/topics/info/>

(イ) 指導者向け研修

教員や保育者など伝える立場の方を対象に、環境教育や環境保全活動をテーマとした講座等を実施しています。

7月に実施した「コロナに負けない！子どもと川で活動したい人のための実践講座」では、小学校教諭や環境活動団体、児童会館職員など様々な立場の方が参加し、環境保全の視点を普段の活動や事業に取り入れ、広めるきっかけを提供することができました。

また、新型コロナウイルス感染症対策についての意見交換を行ったほか、参加者同士や参加者と講師が、子どもを対象とした活動の進め方や自分自身の活動などについて話し合う場面も見られ、交流、つながりを作る機会とすることができました。

【参照 URL】

https://www.kankyo.sl-plaza.jp/event_post/

ウ 環境教育・SDGsワークショップの開催（新規事業）

これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指して、「環境教育・SDGsワークショップ」を初めて開催しました。

合計2回の連続ワークショップで、第1回目は2月27日、第2回目は3月6日に開催し、市内の子ども会及び児童会館に通う小学1から6年生までの約30名がオンライン形式で参加しました。

子どもたちが参加する会場を6か所（子どもの体験活動の場「C o ミドリ」、幌西児童会館、山鼻かしわ児童会館、あいの里ひがし児童会館、元町児童会館、札幌小ミニ児童会館）設置し、オンラインで接続し、地球の循環のしくみを学びながら、300年間宇宙を飛び続けることができるロケット「宇宙船地球号」を模造紙上で制作するグループワークを行いました。

また、グラフィック・レコーディングという手法を活用し、子どもたちが話した内容を絵や文字などで記録しました。

なお、各会場に配置されたファシリテーターは、9月から2月にかけて開催した「札幌市みんなの気候変動SDGsゼミ・ワークショップ」の参加者の一部が担いました。

来年度は、新型コロナウイルス感染症の動向などを踏まえ、実施形式や実施回数を検討のうえ、今年度につき開催する予定です。

【参照資料】

資料 5

【参照 URL：札幌市みんなの気候変動 SDGs ゼミ・ワークショップ】

<https://www.city.sapporo.jp/kankyo/sdgs/workshop/2020/index.html>

(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実

ア 札幌市環境プラザにおける事業の実施

(7) 学習支援等

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

今年度、このような例年行っている事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により利用件数は大きく減少しました。

そのため、動画共有サイト「エコチャン!!－環境プラザ YouTube チャンネル」に見学できる内容を伝える動画をアップロードするなど、環境プラザに来館せずに触れられるコンテンツの作成を行いました。

このほか、オンライン形式で開催された「環境広場さっぽろ 2020」や「環境報告書展」へ出展するなど、オンラインを活用して環境に関する学習の場を提供しました。

【参照 URL】

<https://www.kankyo.sl-plaza.jp/service/>

https://www.youtube.com/channel/UC1jSPZ_Y0Xz8Cxb34Jp-5Dw/videos

【参照 URL：環境広場さっぽろ 2020】

<https://www.city.sapporo.jp/kankyo/hiroba/index.html>

【参照 URL：環境報告書展】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/management/ems_jigyosha/houkokushoten.html

(イ) 各種講座等の実施

環境プラザでは、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、対面形式での事業とオンライン形式の講座を使い分けて各種講座等の事業を実施しました。

対面形式での事業「動物たちのミカタ」では、円山動物園を会場とし、動物の生態や特徴に伴う様々な見方を専門家が親子に向けて教授することで、動物園の楽しみ方の一つとして生物多様性や環境共生を考える機会を提供しました。

オンライン形式の講座では、「昆虫食」「生理用品」「フェアトレード」などをテーマとして、様々な切り口から生活に関わる物の環境負荷を考えたり、ライフスタイルを見直したりすることについて意識する機会を提供しました。

【参照 URL】

https://www.kankyo.sl-plaza.jp/event_post/

イ さっぽろこども環境コンテスト

さっぽろこども環境コンテストは、日頃、小中学生が環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストで、平成 20 年度から実施しています。活動を発表することで、周囲の子どもたちのみならず、大人たちにも活動の輪を広げていくことを目的に開催しています。

今年度については、新型コロナウイルス感染症対策のため、これまでのステージ発表にかえ、活動の様子を動画やポスターにまとめた発表作品を募集し実施しました。作品や審査結果は札幌市ホームページで公開しています（公開期間：1 月～3 月）。

また、1 月にオンライン形式で開催した「環境広場さっぽろ 2020」の中でも、応募作品を紹介し、子どもたちによる環境活動を広く伝える機会を設けました。

来年度についても新型コロナウイルス感染症や社会情勢を注視しながら、実施形式を検討のうえ、開催する予定です。

【参照 URL】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/contest/2020/index.html

【参照 URL：環境広場さっぽろ 2020】

<https://www.city.sapporo.jp/kankyo/hiroba/index.html>

【審査結果】 ◎：最優秀賞受賞団体 ○：優秀賞受賞団体 ●：クリック募金特別賞

動画の部	ポスター発表の部
◎旭山自然調査隊 「ぼくたちの守るもの 旭山自然調査 隊活動報告」	◎札幌市立石山緑小学校 3年生 「ハーブの小径発見隊～小径はみんな の宝物～」
○札幌市立米里中学校 科学部 「望月寒川の生物調査 8年目」	○藤女子中学校 1年有志 「+1.5℃に抑えよう！パリ協定達成と 持続可能な社会を目指して」
●札幌市立伏見中学校 8組 「日常に生かす環境学習」	●旭山自然調査（※） 「ぼくたちの守るもの 旭山自然調査 隊活動報告」
	●札幌市立西白石小学校 6年1組 「水辺の楽校～あしたの望月寒川～」
	●タッピーファーム 栄西児童会館 「わたしたちの活動！」

※旭山自然調査隊は、動画の部とポスター発表の部の双方に応募。動画の部で最優秀賞を受賞しており、どちらの作品も団体の活動内容を発表する内容であることから、ポスター発表の部ではクリック募金特別賞としました。

(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

ア 環境プラザホームページ等

環境プラザでは、講師派遣や貸出教材、事業などについてホームページを利用して情報提供を行っています。

また、フェイスブックや、動画共有サイトに「エコチャン!!ー環境プラザ YouTube チャンネル」を立ち上げ、作成した動画をアップロードするといった情報発信も行っています。

【参照 URL】

<https://www.kankyo.sl-plaza.jp/>

https://www.youtube.com/channel/UC1jSPZ_Y0Xz8Cxb34Jp-5Dw/videos

【ホームページアクセス件数】

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
環境プラザHP	134,700	95,649	80,680	76,950	67,548

※ 令和 2 年度は、令和 3 年 2 月末現在の数値。

※ 平成 28 年度中に件数カウンターを入れ替えたため、アクセス件数は 28 年度分と比較できない。

イ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み

「環境中間支援会議・北海道」は、行政や地域など、様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う組織で、環境省北海道環境パートナーシップオフィス（通称：EPO 北海道）、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO 法人北海道市民環境ネットワーク（通称：きたネット）の 4 組織が連携して、北海道内における様々な環境活動を支援するための連携組織です。

環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして、定期的に行われる会議に参加しております。

環境教育施設に関する勉強会なども行っており、今年度は、オンライン形式で「ウィズコロナに対応した環境学習施設での取組」をテーマとして開催されました。

ホームページ「環境☆ナビ北海道」において、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

【参照 URL】

<http://enavi-hokkaido.net/index.html>

ウ 「環境教育・環境学習ガイド」の発行

札幌市では、「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、環境問題の理解の促進や環境保全行動の推進に向けて、各部局が様々な取組を行っています。こうした札幌市の取組をまとめた「環境教育・環境学習ガイド」の令和 2 年度版を発行しました。

市民への広報、情報提供として活用することにより、環境教育関係事業に関する情報収集の効率化や各取組への参画などを促進し、環境教育・環境学習のさらなる推進を図ります。

また、市役所内で共有することによって、各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方針の趣旨に沿った事業展開を図るよう促進します。

【参照 URL】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/guide.html